

令和 6 年度 平塚市自動運転バス実証実験について

1 実証実験の目的

本市では令和5年度から神奈川中央交通株式会社等とともに、既存バス路線での運行を見据えた、自動運転バス実証実験に取り組んでおり、令和6年度も引き続き実施する予定です。

これは、少子高齢化や人口減少、運輸業界における運転士不足など、地域公共交通を取り巻く社会環境が大きく変化していることから、持続可能な公共交通の実現のため、運転士不足改善の一助として、将来的な既存路線バスへの自動運転車両の導入により、本市の市民生活に欠かせないバス路線を確保・維持していくことを目的としています。

2 令和 6 年度 実証実験の概要

自動運転レベル	レベル2(運転手が同乗し、状況に応じてハンドル操作を実施) 平塚駅南口駅前ロータリー内は手動にて走行 ※昨年度と同様
実証実験期間	令和 6 年 10 月下旬～令和 7 年 1 月下旬 ※車両調整を目的とした準備運行期間を含みます。 ※一般試乗の実施を検討します。
運行ルート	平15系統(平塚駅南口～すみれ平～平塚駅南口)約4.3km と同様のルート ※昨年度と同様 ● 神奈川中央交通本社
使用車両	いすゞ自動車株式会社製大型バス「エルガ」(自動運転仕様) ※市内で運行する既存路線バスと同サイズ。カラーリングを含め、仕様は調整中。
特徴など	・ ルートは歩車道が分離された直線道路が中心で、右折1か所、左折3か所です。また、付近に運行事業者である神奈川中央交通株式会社本社があり、迅速な対応が期待できます。 ・ 昨年度に引き続き、信号の色情報をバスに送信し、車両の制御に反映させるほか、神奈川中央交通本社内に設置した遠隔監視室を活用します。

その他	- 平塚駅南口駅前広場駐輪場の跡地(下写真)を自動運転バスの待機場所として暫定活用します。  - 自動運転バスを含めた各交通手段の円滑な動線確保に向けて、平塚駅南口ロータリー改修に向けた基本設計等を実施します。 - 現状はバス、タクシー、一般車が同一レーンを走行するほか、一般車の駐車によるバス動線の妨げや、歩行者や自転車がロータリー内を乱雑に通行するなど安全面の課題、バス待ち列が島式バス停内におさまらず、横断歩道上に待機するという課題等があります。 
------------	---

本実証実験は、令和 6 年 1 月 19 日に、平塚市が神奈川中央交通株式会社、三菱商事株式会社、アイサンテクノロジー株式会社、A-Drive 株式会社、いすゞ自動車株式会社と締結した「自動運転移動サービスを中心とした地域公共交通の DX 推進に係る連携協定」に基づきます。

3 その他

本市では令和 6 年度に、レベル 4 自動運転移動サービスの関係許認可取得に向けた課題等について協議する場として、「平塚市レベル4モビリティ・地域コミッティ」を設置しました。

国土交通省、経済産業省、総務省、神奈川県、神奈川県警察、神奈川中央交通株式会社及び平塚市による綿密な連携体制の下、事業を推進してまいります。

以 上